

猫じゃなくて、命の話。  
猫じゃなくて、まちの話。  
猫じゃなくて、あなたの話。  
だから彼女は  
今日も猫を助け続ける。  
明日を生きる、すべてのために。

取材・文・写真／長野大生（しっぽ文庫）



2018年から魚の町周辺で地域猫活動をはじめ、これまでたくさんの猫たちの命を救ってきた一般社団法人〈長崎さくらねこの会〉代表・山野順子さん。有志らとTNRM・TNTA活動や譲渡型保護猫シェルターの運営、さらに今年2月には野良猫専門病院を開設するなど、精力的に活動の幅を広げられています。そんな山野さんが心から願う未来と、地域猫活動を続けている中で感じている葛藤に迫りました。私たちが知らないやいけないうこと、たくさん詰まっています。

「もし、かわいいそうな猫に出会ったら？」  
その答えを出すのは、目の前にいるあなた

活動の認知度が高まり、個人から猫の受け入れに関する相談を受けることが増えてきたという山野さん。しかし自身の生活を成り立たせるためには、動物愛護センターからの相談以外はお断りしなければならないのが現状だ。時には相談者から「じゃあセンターに連れて行っていいんですか？」と判断を迫られることもあるという。「そういうときは「私たちに決定権はありません。ご判断をなさるのは、目の前にいるのはあなたではないでしょうか」とお伝えしています。本当はつらい。「今すぐ連れてきなよ！」と言ってあげたいけれど、今の私にはこれが限界なんです」と苦しい胸の内を明かした。

〈長崎さくらねこの会〉設立のきっかけは  
「なかつたことにしたあの日」への後悔

個人に判断を委ねる一方で「助けられなかったことは咎められるべきではない」と言い切る山野さん。そんな山野さんが地域猫活動をはじめきつかけとなったのは、浜の町で捨てられていた5匹の子猫だった。「当時は息子が大学受験を控えていて、とてもじゃないけどどうじゃあ飼えなかった。見なかったことにしたんです。あの日からずっと『どうすれば私の目の前から子猫がいなくなるんだらう』と考えて考えて、たどり着いた答えが猫の不妊化でした」と当時を振り返る。助けられなかった悔しさと、助けなかった正しさ。その狭間を経験した山野さんの言葉には、命と後悔へのあたたかさがあった。

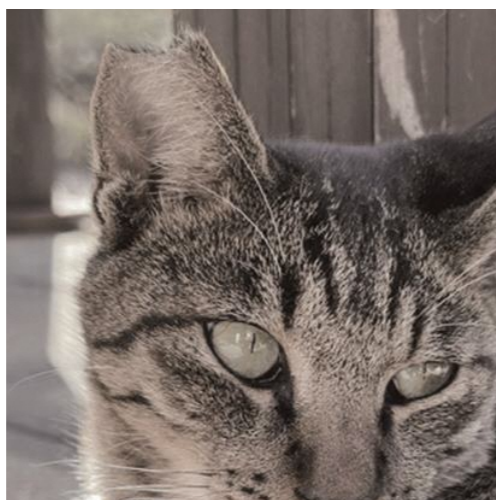
「この子たちの猫生を育むために」  
譲渡までを見据えた地域猫活動への想い

現在、山野さんたちが保護している猫は約40匹。新しい家族が見つかるまでは、獣医指導のもとフードの指定

## vol.2 「まちづくりって、意識高い系がやってる他人事じゃないんだよな」

「そこにいる動物が不幸だとしたら、そのまちな不幸なんです」それは、2時間にも及んだ取材の中で、山野さんが特に力を込めた言葉だった。たった一人

でスタートした地域猫活動。当時はあまり馴染みのない活動であったことから、周囲の風当たりも強かったという。猫の捕獲方法さえも分からず、何度も涙を吞んだ山野さんの背中を押したのが、当時の自治会の青年部長。「まちのためにこんなにいい活動をしてくれる方を応援しなくて、誰を応援するんです」大の猫嫌いだっ



たという青年部長のひとことで流れは大きく変わり、少しずつ地域の方の理解も得られるようになった。取材を続

ける中で、なんとなく「かわいいですね」という言葉がこぼれた。すると山野さんは、目をほそめながらこう言った。「猫ってかわいいですよ。でも、お世話になっ

ただで充分だった。けれども、山野さんと同じくらい猫に尽くすことは決して簡単なことじゃない。だとすると、僕には何が出来るだろう。野良猫に餌を与えないこと。実家で暮らす保護猫を大切にすること。山野さんのところへフードを届けること。「たとえ小さな行動だったとしても、それがいつか大きなうねりになる」山野さんの言葉に後押しされて、ギフト用のニュートロを注文した。そこにいる猫たちの幸せを願って。これが僕なりのまちづくり。

取材・文・写真／長野大生（しっぽ文庫）



移動書店  
しっぽ文庫

しっぽ文庫情報はこちらをスキャン

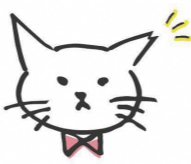


ホームページ



Instagram

Information... 長崎さくらねこの会



ホームページ



Instagram



X (旧 Twitter)

長崎さくらねこの会についてもっと知りたい方はこちら。活動の最新情報はHP・各SNSにて積極的に更新中！

と摂取量をオーダーメイドで徹底管理。そうすることで、猫たちの健康と毛並みを維持している。「見た目がすべてじゃないけれど、私たちはこの子たちの猫生を育んでいかなければならない。そのためには、あたたかく迎え入れてくれる家族が必要なんです」と譲渡を見据えた。地域猫活動の本来の目的と「はじめの一步」に寛容になる大切さ

山野さんが活動を続けること6年。魚の町にいた約60匹の猫は4匹まで数を減らし、かつて子どもたちに「うんこロード」と揶揄されていた糞尿のにおいも激減した。「地域猫活動の目的はまちで猫を飼うことではなく、不幸な猫を減らすこと。猫が助かれば人が助かり、まちが助かる。私もはじめの一步を踏み出すには勇気が必要でしたが、自治会のご理解もあって続けてこられました。ぜひ、はじめの一步を踏み出す人を大切にしてほしい。地域猫活動を通じて、そういう部分も届けていけたら嬉しいですよ」

Cats are strange beings.

猫には他にない魔力があるのは知っています。もし関わるのならエサをやるだけではフエアじゃない。

そのあとのことで人知れず頑張っている人も、それを支えている人もいます。

have a wide perspective



ねこっけ編集部